

授業科目名	生 物			担当教員	齋藤 吉紀	
開講年次	1 年前期	セメスター	1		時間数(単位数)	15 (1)
必修選択	選択	授業形態	講義		使用教室	
授業の目的	高校までの生物をもとに、人の生命を維持する機能の基礎知識を理解する。					
到達目標	1. 細胞の構造・化学成分・細胞膜の輸送について理解できる 2. ATP とその生合成の過程・同化作用・異化作用について理解できる。 3. 個体の調整（神経・ホルモン・内分泌腺）について理解できる 4. 遺伝の仕組みについて理解できる。					
ディプロマポリシーにおける科目の位置づけ	基礎医学や看護学を学修していく上で必要な生物を学ぶ科目であり、人間の理解のための思考や主体的な学習の力（自己教育力）を培う。					
ディプロマポリシーとの関連	人間の尊厳と権利を擁護する力	自己教育力	チームで働く力	問題解決力	看護の専門性を探究する力	
		◎		○		
授業計画						
回	授業内容		授業方法	学修課題 (予習・復習)		取組時間 担当者
1	1 回 細胞の構造と機能 (1) 生命の化学、細胞の構造		講義	・ 生命の化学的基礎と細胞の内部の機能分化について予習する ・ 授業中に出した復習問題に取り組む		1.5 時間 齋藤
2	2 回 細胞の構造と機能 (2) 細胞膜の輸送 講義		講義	・ 細胞は外部との境界があり、生命現象を営む物質のやり取りをする仕組みについて予習する ・ 授業中に出した復習問題に取り組む		1.5 時間 齋藤
3	3 回 生体内のエネルギー (1) ATP とは何か		講義	・ 生体内のエネルギー変換の仕組みについて予習する ・ 授業中に出した復習問題に取り組む		1.5 時間 齋藤
4	4 回 生体内のエネルギー (2) 同化作用と異化作用		講義	・ 生命のエネルギー交換の同化と異化の仕組みについて予習する ・ 授業中に出した復習問題に取り組む		1.5 時間 齋藤
5	5 回 個体の調節 (1) 自律神経による調節		講義	・ 外部からの刺激に対応する神経系の仕組みについて予習する ・ 授業中に出した復習問題に取り組む		1.5 時間 齋藤
6	6 回 個体の調節 (2) ホルモン・内分泌による調節		講義	・ ホルモンなどの化学シグナルについて予習する ・ 授業中に出した復習問題に取り組む		1.5 時間 齋藤
7	7 回 遺伝の仕組み (1) メンデル遺伝・色々な遺伝		講義	・ メンデルと遺伝の概念について予習する ・ 授業中に出した復習問題に取り組む		1.5 時間 齋藤
8	8 回 遺伝の仕組み (2) 遺伝子の本体について		講義	・ 遺伝子の本体の分子機構について予習する ・ 授業中に出した復習問題に取り組む		1.5 時間 齋藤

先行履修 科目	
テキスト	概略を記載したプリント（復習問題も含む）
参考文献	大森徹：大森徹の最強講義 117 講 生物 I・II 新課程増補版（シグマベスト）. 文英堂, 2014. 浅島誠 他：生物. 東京書籍, 2012. Neil A.Campbell 池内昌彦 他（監訳）：キャンベル生物学. 丸善, 2013.
評価方法	定期試験85%・課題のレポート10%・授業参加度5%